

北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	腫瘍微小環境における補体 C1S の癌進展メカニズムに及ぼす影響の解明
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部上部消化管外科学 教授 比企 直樹
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・ 目的	癌治療は現代医療の大きな課題となっています。近年の研究により、癌細胞の周囲に存在するリンパ球や線維芽細胞などが癌を悪化させる働きを持つことが明らかになり、癌周囲の細胞に焦点を当てた研究が進んでいます。本研究でも同様に、癌細胞の周囲の組織(腫瘍微小環境と呼びます)に焦点を当て、癌の悪化に影響する遺伝子を探索し、その機能の解析を行っています。本研究では、大腸癌の周囲に存在する線維芽細胞で大きく発現している遺伝子の解析を基に、C1S という遺伝子に着目して研究を進めています。 本研究で注目している C1S は補体と呼ばれる免疫細胞の一種であり、体外から侵襲してきた菌やウイルスを破壊する役目を担っています。一方で、最近の報告では C1S が腎細胞癌や悪性脳腫瘍において上昇しており、癌の悪化に影響している可能性が指摘されています。その機能を解明する一つの手がかりとして、C1S と同じグループに属する C1Q という補体が「Wnt/β-catenin 経路」という癌増殖を促す仕組みを介して癌を悪化させることが大阪大学から報告され注目を集めています。本研究で着目している C1S はこれまで免疫以外の機能は報告されておらず、癌における機能は明らかになっていません。 本研究では、大腸癌の周囲にある線維芽細胞で大きく発現している C1S の癌における機能を解明し、さらには癌増殖経路として知られる「Wnt/β-catenin 経路」との関連についても明らかにしたいと考えています。
調査データ 該当期間	2018 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	2018 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までの期間に手術加療が行われた原発性大腸癌の症例(大腸癌における、long non-coding RNA である WNTRLINC1 遺伝子の発現の臨床的意義の検討、B17-204)および 2020 年 6 月 1 日から 2021 年 6 月 30 日までの期間に手術加療が行われた大腸癌を原発とした肝転移症例(癌組織における SPARC 発現の臨床的意義、B19-236)で、先行研究に対して同意が得られている方。
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報: 2018 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。また、手術で得られた残余検体を利用します。
試料/情報の 他の研究機関への提 供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。

個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 本研究の遂行のための費用は学内研究費、財団助成金、研究助成金などを使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け適切に管理されます。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 所属・職位: 医学部上部消化管外科学 教授 担 当 者: 比企 直樹 (ヒキ ナオキ) 電 話: 042-778-9974
備 考	